



ふれあい道徳がありました

6月9日(日)のフリー参観デー。各学年で「ふれあい道徳」がありました。どの学年も保護者の皆様にもご参加いただき、教室にいる全員でそれぞれのテーマについて考えました。

【小学部 1年生】

「ハムスターの赤ちゃん」(D(9)生命の尊さ)

母親ハムスターが赤ちゃんを大切にしている様子や、健やかに育つ赤ちゃんハムスターの様子について考えた後、保護者さんから子どもたち宛てに書いていただいた手紙を読むことで、保護者さんのお子さんを大切に思う気持ちや成長を喜ぶ気持ちを、実感することができました。最後には、手紙のお礼として、子どもたちからお返事を書きました。



【小学部 2年生】

「ダメ」(A(1)善悪の判断・自律・自由と責任)

大好きなプリンをくま君に食べられてしまったりす君。「ダメ」と言えなかつたりす君に共感しながら、保護者の方からおうちでの様子を聞き、正しいことを主張する方法について、親子で考えました。



【小学部 3年生】

「なかよしビンゴ」(B(10)相互理解・寛容)

「うさぎとかめ」の動画を見て、努力することの大切さを学んだあと、保護者さんと一緒に「なかよしビンゴ」をしながら、それぞれの好きなことや行ってみたいところなどを質問し合いました。

<児童の感想から>

- ・思った以上に自分の考えと違う人が多かったのでびっくりしました。
- ・自分と同じ考えの人がいたので良かったです。



【小学部 4年生】

「テレパシー・数字数え」(B(10)相互理解・寛容)

二人組で、相手が頭に浮かべている数字を当て合う「テレパシー」と、五人組で、打合せ無しで1~10の数字を順序よく代わる代わる言っていく「数字数え」をしました。「テレパシー」では、保護者さんと一緒に楽しみ、感想を発表していただきました。

<児童の感想から>

- ・ママとしたらつながった。
- ・人数が多いと難しかった。
- ・3と5が特にかぶりやすかった。
- ・小さい数字で被るのが多かった。
- ・思ったよりうまくいかなかった。



【小学部 5年生】

「十人十色」(B(11)相互理解・寛容)

ゲームで決めたグループで、すごろくトークングをしました。サイコロの目が出たところのテーマについて、みんなで述べ合うというもので、保護者さんにも参加していただきました。

<児童の感想から>

- ・みんなに自分のことを知ってもらって気持ちよかったです。またほかの人の質問や意見を聞きたいです。
- ・みんなのことはよく知っているけど保護者のことはあまりわからなかったなので、今日知れてよかったです。
- ・他の人が考えていることはわからないけど、それぞれいろいろな仕組みやかいたうががあっていいなと思いました。



【小学部 6年生】

「短所を長所にかえよう」(A(4)個性の伸長)

それぞれの短所を、グループで長所に言い換える「リフレーミング」をしました。グループには保護者さんにも入っていただき、皆で「自分らしさ」について考えました。

<児童の感想から>

- ・自分の知らないいいところが見つけれられた。短所もポジティブに変えて受け入れて、長所をもっと伸ばしていきたい。
- ・自分がだめだと思ってことも考え方を変えるとよいところに見えて、自信を持てたり、ポジティブになるので、これからもしていきたい。



【中学部 1 年生】

「みんなちがって、みんないい」(B(9)相互理解・寛容)

金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」を題材に、様々なことに対する感じ方の違いを実感し、「個性」について考えました。保護者さんも一緒にいろいろなクイズを行い、楽しみながら「ちがい」を体感しました。

<生徒の感想から>

- ・人それぞれで違う考え、聞き方、見方がある。その違いがあり、一人一人が個性を持ち続けること。これがとても重要になってきているのではないかと思います。
- ・今日の授業を通して、同じ言葉方でもそれぞれ違ってくるということがわかりました。それを否定せず、一つの考えとしてとらえることも大事だとわかりました。



【中学部 2 年生】

「楽しいコミュニケーションを考えよう」(A(1)自主・自律・自由と責任)

LINE 上でのメッセージによるトラブルを疑似体験し、保護者さんを含めたグループで、どうすればトラブルにならないかを話し合い、意見を発表し合いました。

<生徒の感想から>

- ・人によって感じ方が違うということ意識して、コミュニケーションをしないといけないと思った。
- ・相手の気持ちをよく考えてラインを送る。送る前に一度考え直す。
- ・送る前に違う意味にならないかを考えたり、その場にあった行動をするようにする。



【中学部 3 年生】

「いのちの判断」(D(19)生命の尊さ)

「自分の家族が脳死になった。あなたは家族の臓器提供を承諾するか」という問いに対して、子どもの立場から、また親の立場から意見を述べ合いました。



<生徒の感想から>

- ・母の話聞いて、経験から命に関する判断が変わることが分かった。だからいろんな経験をしたい。
- ・自分は家族が一番大事。だから、まだ温かい脳死の家族と別れることは難しいと感じた。
- ・身近にないけど一番身近な「死」。それとどう向き合うのか。向き合えるのか。今はぱっと承諾できるけど、実際はわからない。命とは本当に大切で、いろんな人から守られているということを改めて実感できた。
- ・自分だったらいくらかでも移植できるけど、家族となると実際の判断が難しいと思った。死を認めたくない気持ちもあるけど、やっぱり自分はその人の意思が大切だと思った。
- ・限られた時間を大切にしたい。本人の意思があっても大切な人だから、長い時間をかけて考える。
- ・もし自分が脳死状態になったら、迷わず承諾してほしいし、きっとそうしてくれると思う。

【中学部のぞみ】

「協力して積み上げよう」(C(15)よりよい学校生活・集団生活の充実)

保護者さんと子どもたちが協力してペーパータワーづくりに挑戦しました。より高いタワーになるように、皆で試行錯誤しながら、楽しんで取り組みました。



6月9日(日)のふれあい道徳。

保護者の方々や地域の方々と一緒に取り組んだ1時間。子どもたちのいつも以上に笑顔いっぱい、活動する姿、いつも以上に深く考える姿が見られた時間でした。

当日ご参加いただいた方も、そうでない方もふれあい道徳についてご意見をお聞かせください。右→のQRコードからアンケートに入れます。

